

# ナプロアース社長通信\_第8回

昨年まではナプロアースの生い立ちを含めた社歴について伝えてきました。

今後は、型にはまらず自由な意見や伝えておきたい事をテーマとして書き続けていきたいと思います。今回は「見識を広げるため、もっと外に飛び出して経験しなさい！」というテーマで書いていきます。

福島の南相馬から出た事が無い田舎者で若かりし頃の『池本篤』は無知で世間知らずだったので、私は日本が嫌いだと公言していました。理由はたくさんありましたが、保守的な文化ではチャンスが乏しく、大人たちは若者を認めてくれないなど自分勝手な意見が先立ち、『日本が嫌い』というイメージを拭うことはありませんでした。

しかし、仕事を通じて日本各地へと出向く機会や、アジアを中心に海外へ行くようになり、異文化に触れ合い出した時ぐらいから、『日本が嫌い』の考えが『日本は本当に素晴らしく誇らしい国だ』と大きく考え方を変えました。

特に思い出に残っているのは、フィリピンで出会った少女の言葉でした。その子は年齢して 5~6 歳でゴミ捨て場に住んでいました。普段はゴミの山に捨てられるペットボトルや鉄など拾って生活費の足しにして、その日の食べ物を確保していました。幸運にもその子と会話する機会があり、どんな夢を持っているのかと尋ねた時、『学校へ行って将来はここにいる子供に勉強を教える教師になりたい。そして少しでも貧乏な子どもたちが学ぶ事で豊かになって欲しい』と目を輝かせながら話してくれました。そのときの私は顔から火が出るような恥ずかしさを覚えました。

若かりし頃の私は、常に恵まれているのに不遇だと思い込み、その環境を自ら変えようと努力もせず、愚痴や不満を言い続け、さらに他人を悪く言うことで自らの正当性を保とうとしていました。この少女のように、なぜ明るい未来を信じて生きてこなかったのか……。与えられる人生より、人に与え続けられる考えに至らなかったのか……。恥ずかしいより情けなく感じました。

現在ナプロアースで行っているさまざまな基金は、自らの意志では環境を変えることが出来ない人達のお役にたてれば、その時受けた「気づき」の恩返しになるのではとの思いで続けています。

どのタイミングで考え方が 180 度変わるような出来事に出会えるか、それは私にも分かりません。しかし、新たな出会いでしか気づけない事があると知った以上、みなさんにも同じように異文化に触れるチャンスがあるよ！という事を伝えておきたかったのです。

社員のみなさんができる範囲としては、休みの日には家に籠るのではなく、新たな出会いを求めて県外などへ外出し、見たこともない事に触れたり知ったりして、たくさんの経験値を積み上げて自分の器を広げて欲しいと心から思います。趣味もそうですが、人生において無駄な事はなく、それが自分の物事の考え方、捉え方を広げてくれると信じています。

会社で行える「新たな出会い」支援の一環として、これからも様々な会社見学や研修・クラブ活動で外を知る機会を積極的に取り組んでいくつもりです。さあ、勇気をもって一步踏み出し、外へ飛び出していきましょう！

また、新たな出会いやご縁を大切にする生き方をしていけば「生涯の友」もできるかもしれません。日本人として生まれた事に感謝し、日本人として誇りを持って人生を歩んで欲しいと心から願います。

平成 30 年 1 月吉日 池本 篤